

2 YICA（外国語科・外国語活動）指導計画

1 YICA（外国語科）のねらい

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を養う。

YICA(外国語活動) のねらい

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

（三つの柱）

- ①（国）「知識及び技能」→（横浜市）「英語の知識・コミュニケーション技能」
- ②（国）「思考力、判断力、表現力等」→（横浜市）「コミュニケーション力」
- ③（国）「学びに向かう力、人間力等」→「主体的に学び、関わろうとする態度」

※国際理解・・・英語を通して言語やその背景にある文化を尊重し、共生できる態度

2 2021年度（移行期）YICA（外国語活動）実施時間数

- 1・2年・・・20時間（英語活動15時間＋国際理解5時間）
- 3・4年・・・35時間（英語活動30時間＋国際理解5時間）
- 5・6年・・・70時間（英語活動65時間＋国際理解5時間）
- 個別支援級・・・15時間（英語活動10時間＋国際理解5時間）

3 めざす子どもの姿

- 多様な異文化について、「違い」を「違い」として認識する態度や、相互に共通している点を見つけようとする態度が身に付いている。
- 英語に親しみ、様々な人々と積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。
- 身近な英語を聞いて、分からないところを理解しようとする態度が身についている。
- あいさつなどの身近な表現に慣れ、表現しようとする態度が身についている。
- 身近な単語を見て意味を理解しようとするなど、文字に対する関心が高まっている。
- 自分の名前や身近な単語などを書くことに親しみ、必要に応じて積極的に使用しようとする態度が身についている。
- 様々な国の講師とのコミュニケーション体験を通して、英語が国際的にコミュニケーションの手段として有用であるということを理解している。
- 世界の様々な状況や、世界の中での自国の状況に目を向けようとしている。

4 英語活動の実際

- ・学級担任および AET の TT で指導にあたる。担任が主となる。AET とデモンストレーションをすることも可能。
- ・横浜版学習指導要領ベースカリキュラム、事例集Ⅱ α、新学習指導要領対応小学校外国語科教科書（New Horizon5・New Horizon6）外国語活動教材（Let's Try!1・Let's Try!2・We can!1・We can!2）をもとに、AET と授業内容、流れ打ち合わせして、授業の準備をする。
- ・AET との役割分担を明確にした指導分担型授業の形態ではあるが、AET 任せでなく、担任がリードして授業作りを行う。
- ・授業の始めに「めあて」の確認、最後に「振り返り」を行う。振り返りはカード等を積極的に活用する。
- ・評価については、「外国語活動の記録」欄に前期・後期とも記述での評価とする。

5 国際理解教室の実際

- ・学級担任および IUI 講師の TT で指導にあたる。
- ・計画・立案は IUI 講師が行う。
- ・外国語を通して、異文化に触れ、自国の文化に目を向けられるようにする。
- ・学級担任は、日本語への通訳をしないで、デモンストレーションや、担任と IUI 講師やりとりを通して子どもたちが類推できるようにする。

6 その他

- ・図書室に国際理解関係の本の棚を設置する。
- ・世界の国々を紹介した本、簡単な英語の本などを置く。